

春野菜の生産（生育）出荷状況について

平成21年2月18日

第3回野菜需給・価格情報委員会資料

キャベツの生産（生育）出荷見通しについて（平成21年2月12日時点）

出荷団体名：全農 千葉県本部

1. 生産（生育）状況について

（1）作付け状況

ア. 作付面積

前年と同程度の作付

イ. 作付時期

平年どおりの播種時期

（2）生育状況

現在出荷されているものは、9月10日前後に播種されたものと思われ、例年より10日ほど生育が早まっている。圃場では菌核病の発生が見られているが、相対的な出荷数量への影響は少ないと思われ、生育自体は概ね順調。

2. 出荷見通し

（1）出荷時期

2月中旬頃までは生育の前進により潤沢な出荷がある。

例年3月に出荷されるものが減少する見込み。

前年は4月下旬からピークに入ったが、本年はやや早まる見込み。

（2）出荷量

2月中旬頃までは、日量2～3万ケースの出荷

3月からは日量1万ケースを割る出荷を予想。

4月中旬より3～4万ケースの出荷となり最盛期に入る見込み。

3. 販売対策

産地・市場・仲卸・量販店との連携による「千葉フェア」「春野菜フェア」等の実施

産地や販売の状況の速やかな伝達…週間出荷情報・販売状況報告の作成、主産県会議の実施

品質の安定に向けた取り組み…査定会や巡回指導の実施

消費者の安心・安全志向への対応…「千葉エコ」「もっと安心農産物」の取り組みの拡大

平成 21 年 2 月 25 日

第 3 回野菜需給・価格情報委員会資料

たまねぎの生産（生育）出荷見通しについて（平成 21 年 2 月 20 日時点）

出荷団体名：佐賀県農業協同組合

4. 生産（生育）状況について

(3) 作付け状況

ウ. 作付面積

H21.2.20 調査分

作型	収穫時期	出荷時期	H21 産面積 (ha)	前年比 (%)	平年比 (%)
極早生	3 月下旬～	～4 月上旬	271.5	116	146
早 生	4 月中旬～	～5 月下旬	668.9	98	96
中 生	5 月中旬～	～8 月中旬	826.1	115	119
晩 生	6 月上旬	～9 月下旬	174.0	75	65
合 計			1,940.5	103	105

※ 平年値は平成 16 年～平成 20 年の 5 カ年を基としています。

エ. 作付時期

播種以降の天候良好で、病虫害少なく苗立ち良く作付け予定の苗確保は平年よりやや良。極早生・早生の定植は、平年並みに順調に進んだが、中生・晩生は曇雨天により平年より 1 旬ほど定植時期が遅れた。

(4) 生育状況

本年の気象は、平年並みの気温の推移と 10 月下旬以降の曇雨天が多いことと、1 月以降の低温日照不足が特徴である。たまねぎの生育は、曇天日照不足により展葉が 2 枚ほど遅れ、平年より 1 旬ほど遅れている。

また、曇雨天の影響で、2 月頃よりボトリチス症の発生が県内各産地で散見され始めた。

5. 出荷見通し

(1) 出荷時期

本年の出荷開始時期は、平年並みの 3 月下旬頃より始まり、青切の早生が集中する 5 月上旬頃で出荷のピークとなる。早生収穫後は、貯蔵可能品種の出荷となり、計画的な出荷が行える。平年 4 月中旬以降の出荷量増加が本県の傾向であるが、本年は極早生への作付け移行により、4 月上旬より出荷量増加が見込まれる。

(2) 出荷量

H21.2.20 調

査分

	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
出荷計画 (t)	1,150	18,996	26,551	15,393	15,257	13,266	2,123	92,736
前年比 (%)	186.5	114.1	110.8	93.4	113.7	122.4	115.6	110.6
平年比 (%)	145.4	123.7	115.7	112.8	119.3	130.3	100.4	119.1

※ 平年値は平成 16 年～平成 20 年の 5 カ年を基としています。

6. 販売対策

- (1) 道産の4月持ち越し残量や本県産の生育状況等によって、4月期の需給や価格が大きく左右されるため、情報交換等連携をとりながら市場等へ精度ある出荷情報を繋いでいきたい。
- (2) 計画出荷を基本におきながら、エンドユーザー（量販・業務）への事前商談により、価格の下落（下支え）対策を行う。
- (3) 極早生・早生時期は生食需要もあるため、試食宣伝やキャンペーン等の実施により消費の拡大を図る。

4. その他

県内主産地における動向

(1) JA さが 白石地区支部

本県における主産地であり、系統作付け面積の64%が白石地区管内作付けである。昨年からは早生の集中を避けるために、JAでの低温倉庫等の確保により中晩生の推進が進んできている。

本年のたまねぎ生育状況として、曇雨天が影響して中晩生以降の定植が遅れたが年末年始に予定の90%ほどが定植確保した。

徒長気味に生育が進んでいるため、ボトリチス症等の病害の発生が増加してきている。

(2) JA さが 佐賀みどり支部

県内でも、最も早く出荷が始まる太良地区がある。マルチ栽培が盛んな地区であるが、現在マルチ栽培から中晩生の露地作付けへの移行が徐々に行われている。

平年からして、1週間ほど地上部生育は遅れている。

(3) JA からつ

玄海灘方面の主産地であり、上場台地と呼ばれる温暖な無霜地帯があり、太良地区と同様早出荷が可能な産地である。但し、本年は平年と比べ10日ほどの生育遅れで推移し2月末に出荷が始まる。作付けの中心は、中晩生でJAでの低温倉庫等の利用が数年前から行われている。